

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

2022年 2月発行 NO-88

地域リハ支援センター

令和3年度を振り返って…

この支援センター便りを作成している2月の朝晩の冷え込みはまだ続いておりますが、日差しは春めいて来ており、皆様はお元気でお過ごしでしょうか。

今年度も新型コロナウイルス感染症に振り回され、思う様にはリハビリテーションの支援活動を行うことができず、大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

この2年間で感じたことは、スペイン風邪というインフルエンザ感染症に人類が振り回されてから100年が経つにも関わらず、世界中で大騒ぎになっていることです。医学の進歩や公衆衛生上の進歩はこの100年でかなり進歩しておりますが、それでも新型コロナウイルス感染症には世界中の英知を集めても翻弄されているのは事実です。この1年で新しいmRNAワクチンが完成し、世界中でワクチン接種の取り組みがなされて、感染症予防策の情報や経済活動の両立など多くの取り組みが科学的検証の上に実施されております。

夏には、東京でオリンピック/パラリンピック・冬には北京オリンピックも開催され、明るい話題も増えてきている一方で、年明けからオミクロン株という新たなコロナウイルスが猛威を奮っています。

今までとは違った活動と生活のあり方から学ぶこともありました。AIの普及が一段と加速したこと、公衆衛生という概念が私たちの命を守る上で大切なこと、予防薬・治療薬の開発にも多大の安全性が配慮されていること、世界中の人々が国境を超えてつながっているということなど、あらためて実感することが少なからずありました。保健所や医療機関など、最前線で取り組まれている方々の心労は想像を超えるものだと思います。

私も地域リハビリテーション支援センターの職員もこんな世情の中で、障害を持たれた方々に寄り添う気持ちの大切さを実感しております。障害を持たれた方々は、ささやかな希望を持たれてご相談される方が大半です。我々も一つ一つ丁寧に寄り添う気持ちで支援することの大切さを改めて認識しているところです。

第一線で取り組まれている方々にもそして私たちを取り巻く人々にも障害の『ある・なし』に関わらず、思いやることと寄り添う気持ちが大切だと思います。

皆様と対面での研修活動が制約された2年間のなかで人との関わりの大切さをあらためて実感しました。

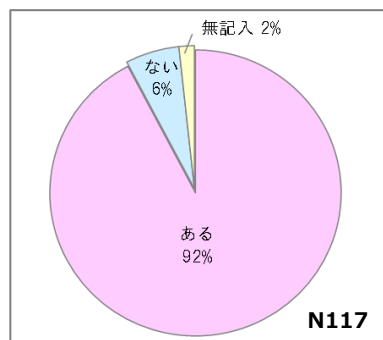
これからも新年度に向けて新たな気持ちで取り組んでまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

(村井 政夫)

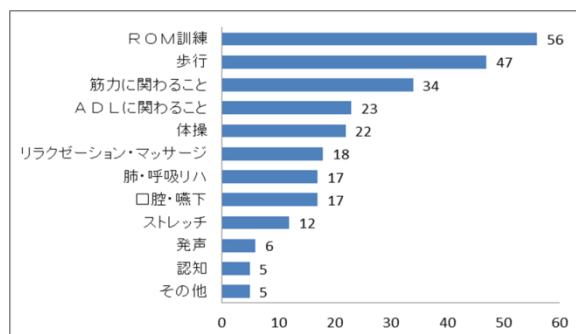
訪問介護ステーション アンケート調査

昨年9月に政令市を除いた神奈川県全域の訪問看護ステーションを対象としたアンケート調査を実施しました。目的としましては、地域でのリハビリテーションを担っている訪問看護ステーションの現状やニーズを知るためと、来年度以降の地域連携構築事業の参考とするためです。結果、264事業所のうち117の事業所よりアンケートの回答にご協力いただきました。その一部をご紹介します。

看護師がリハを行うことがあるか



その内容について

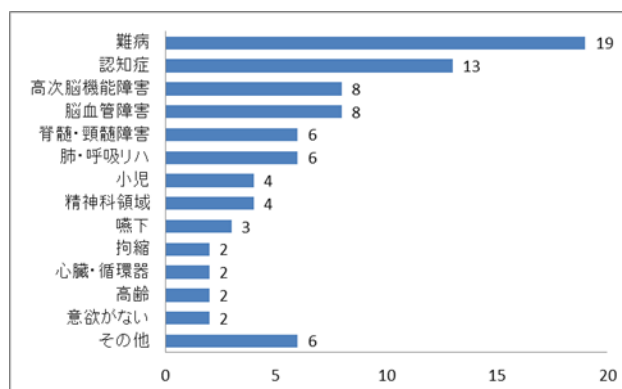


まず、『看護師がリハを行うことがあるか』については、9割以上の事業所で看護師が何らかのリハビリを行っているという結果でした。

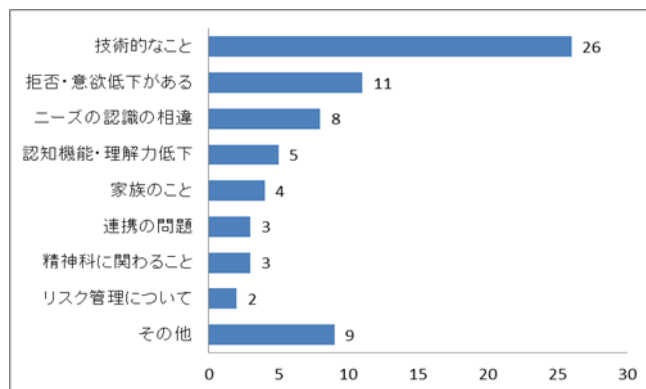
『その内容について』は、ROM訓練や歩行練習・筋力アップ、日常生活動作練習などが多いという結果でした。また、自分たちが行っているリハビリが効果的なのかどうか分からないといった声も多く聞かれました。

次に、『対応がむずかしい疾患・障害について』、『対応がむずかしい内容について』『リハビリテーション・日常業務における課題』を集計してみました。（集計については自由意見の中から同意の内容を整理・数値化してあります）

対応がむずかしい疾患・障害について

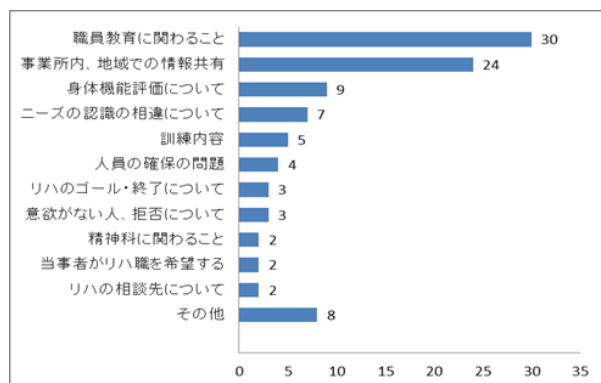


対応がむずかしい内容について



対応がむずかしい疾患・障害では、難病や認知症が多いという結果でした。神経/筋疾患などの難病は、当センターの専門相談の件数においても常に上位です。しかし、認知症は当センターでも未知の分野であり、今後の課題としています。

リハビリテーション・日常業務上の課題



日常業務上の課題では、職員教育（技術の向上など）・事業所内/地域での情報共有といった回答が多くみられました。

職員教育に関しては、看護師もリハビリに関する知識や技術の習得が必要と感じてはいるものの、業務に追われ時間が取れないなどの意見が多く聞かれました。技術面に関しては、多くの事業所が対応に難渋していると声を上げていただいた事柄を、来年度の研修会のテーマとして開催できるよう検討しています。

情報共有に関しては、事業所内/地域での多職種間での情報共有や共通言語でのやりとりの難しさや、コミュニケーションなどの課題が示唆されたのではと考えます。（小川 淳）

多職種間の情報共有につきましては、来る3月10日に『小田原市におけるリハビリテーション情報提供書を考える』をテーマに、オンラインでの研修会を予定しております（無料）。小田原地区での関連職種の方々にご協力を得て「欲しいリハビリテーション情報について」御意見をいただく予定です。詳しくは地域リハ支援センターのホームページをご覧ください。地域で活動するみなさまのご参加をお待ちしております！（磯部 貴光）

オンライン専門相談

コロナの第6波の襲来により、施設に入所されている方々も長きにわたって活動を制限されています。それに伴い、心身機能の低下に伴うADL能力の低下が顕著になってきているようです。今回は、コロナ感染防止のため、施設内へ外部者が立ち入ることがむずかしいという施設から、**オンライン相談**にお申し込みがありました。

相談内容 ① 歩行能力の低下に対する運動プログラムについて（1件） ② 車いす姿勢について（2件）

お顔を見ながら
提案しています！



【運動プログラムについて】 歩行時つま先が引っかかり、転倒することが増えた

施設内で行き来できる範囲を制限しているため、歩行（運動）機会が減ってしまい、歩行が不安定になった…と相談がありました。

画面を通して身体機能の評価を行うと、膝・股関節が曲がったまま前方に突進していくような歩き方でした。要因として、膝の後ろの筋肉が伸びにくく（固く）なっていることが影響していると思われました。筋肉が固いまま動くと、バランスに影響し転倒の危険性が高くなるので、固くなりやすい筋肉をほぐすストレッチを座位と立位バージョンで提案しました。無理のない範囲で継続していただき、歩行が安定することを期待しています。

【車いす調整について】 左右のどちらかに傾いてしまう

車いす姿勢は、車いす自体の設定は変えられなくても、座り方を工夫したり、身近にあるもの（タオルやスポンジなど）で少し調整することで、姿勢に改善がみられることがあります。不良姿勢のまま長い時間経過してしまうと、脊柱の変形や関節拘縮、嚥下機能の低下、褥瘡のリスクが高くなるなど、日常生活動作に大きく影響します。『良姿勢』で座ることは身体機能を維持するという面でとても重要です。



◎お困りの方がいましたら、ぜひご相談ください！

（清水 里美）



4月～1月末
専門相談件数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷（除くCVA）	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他（切断・加齢等）	不明	合計
県央	16(3)	1	4(1)	2	3	6(3)	15(3)	3			50(10)
湘南東部	4(1)	1					1	1			7(1)
湘南西部	2	1	3		1			2	1		10
県西	1	2				3		2			8
横須賀・三浦	2	1					2(1)	5	3		13(1)
合計	25(4)	6	7(1)	2	4	9(3)	18(4)	13	4		88(12)

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央		13(3)	2	1	2	5(1)	19(5)	2	4(1)		1			1	50(10)
湘南東部					1		1	1		4(1)					7(1)
湘南西部		2		1	3	2			1		1				10
県西					2	3		1	2						8
横須賀・三浦			1	3	4	4(1)		1							13(1)
合計		15(3)	3	5	12	14(2)	20(5)	5	7(1)	4(1)	2			1	88(12)

（ ）の数字は訪問の件数



2022年 2月～3月

リハビリテーション専門研修 報告



研修名	開催日時	定員	会場（研修形式）
セラピストのためのハンドリング入門	2月5日（土）	20人	コロナ感染拡大により中止となりました。
からだにやさしい介助入門 ポジショニング編	2月9日（水）	20人	オンライン研修
障害のある方の在宅就労支援	2月19日（土）	30人	オンライン研修
摂食嚥下障害のリハビリテーションの実践	2月23（祝・水）	20人	コロナ感染拡大により中止となりました。
脳血管障害のリハビリテーションの実践（下肢装具編）	3月5日（土）	20人	

今年度もたくさんの方のご参加ありがとうございました！ 来年度もよろしく願いいたします。

政令市と神奈川県の情報交換会と高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

神 神奈川県内には政令都市が3市あり行政単位の枠組みを超えた情報交換が要されます。あるいは、高次脳機能障害支援を行う機関も複数ありますので、施設間の連絡調整等も欠かせません。そこで毎年2回、「政令市と神奈川県の情報交換会」と「高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会」を開催することで顔の見える関係を継続できるように取り組んでいます。一昨年度末よりCOVID-19の影響で参集することが難しくなりましたが、昨年度よりZoomを導入したオンライン会議を開催しています。

本 年度も各2回ずつ実施しました。「政令市と神奈川県の情報交換会」については拠点機関である神奈川リハが調整を行い、横浜リハ、川崎市北中南部リハのソーシャルワーカーと行政職・れいんぼう川崎・高津区地活・相模原市のかわけみ会、神奈川県と相模原市の行政職等のメンバーで構成され、各機関での相談支援実績や支援内容、連携機関、普及啓発や研修の開催状況等について報告するとともに、地域内での家族会との連携、当事者家族会の運営状況等について情報交換を行いました。

「**高**次脳機能障害支援機関ネットワーク連絡会」は、高次脳機能障害支援者を中心に受け入れていたり、積極的に支援いただいたりしている地域通所施設や相談支援事業所15機関にて構成されています。毎回情報交換のテーマを決めて情報交換を行う、支援困難事例報告等を実施しています。本年度の第1回では就労支援機関との連携状況をテーマとしました。参加機関は地域作業所や地域活動支援センター、就労継続支援B型が多いため、就労移行支援事業所や就労支援機関（地域障害者職業センター、就業・生活支援センター、就労援助センター等）との連携を行いつつ支援を行っており、就労につながる方がいる反面、2年間の利用期間内に就労につながらなかった方の受け皿や、就労定着支援の難しさ等について意見交換を行いました。第2回ではグループホームの利用状況と課題、地域での当事者家族会の開催状況について情報交換を行いました。従来主流であった介護サービス包括型だけではなく、日中サービス支援型が増えつつありますが、施設側の支援内容と当事者家族の支援ニーズに隔たりが出た場合の対応や、そもそも家族は親亡き後の生活の場としてグループホームを希望するが、当事者自身は住み慣れた自宅やアパート等での単身生活を所望することが多い現状について確認しました。

2 008年度から始めた「政令市と神奈川県の情報交換会」は14年、2014年度に開始した「高次脳機能障害支援機関ネットワーク連絡会」も8年の歴史を積み重ねてきました。今後も重層的な支援体制が発展的に構築されるように地域支援機関との連携を強固にすべく取り組みを継続したいと考えています。

（瀧澤 学）



この2年でZoom会議が
あたり前になったにや～



編集後記

寒い、とにかく寒い、今年の冬は寒い。新型コロナウイルスの感染状況のせいなのか、ガソリン・電気・ガス・食料品などなど物価が騰がる。
早く、春になり、身も懷も暖かくなりたいものだ。
ただし、コロナと花粉は、ご遠慮願いたい。（Y・I）

〒243-0121 神奈川県厚木市七516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601